

AD ALTIORA SEMPER

神戸市外国語大学図書館報

第11号

めく
旋る図書館、屹立する図書館

情報化時代の大学図書館

各種利用統計の紹介

蔵書点検の結果について

INFORMATION

編集後記

めく 旋る図書館、屹立する図書館

武内 旬子 (本学助教授)

現在パリのセ - 又川沿いに二つの図書館が近代建築の偉容を誇っている。サンルイ島の端に向かいあう左岸にあるのがアラブ世界研究所、そのずっと東、再開発真っ最中のトルビアック地区にそびえているのが、新築成った国立図書館である。

アラブ世界研究所の正面を覆うガラスとメタルのモザイク模様は、各片の中央部が電気仕掛けで突然開いたり閉じたりするのでなかなか侮れない。多目的のこの建物の一画に図書館がある。検索のコンピュータ - 画面は当然バイリンガル(仏・アラブ)で、当然左右両方が文頭になる。真ん中に残った空間に思わずタテ文字を打ち込んでみたくなるのは私だけではあるまい。パリにこういう機関が存在する政治的理由はかなり複雑である(従ってここでは略)。アラブ世界への影響力を保持したいフランスの思惑が実現させた場であることは確かだが(1987年開館)、極東の小島からきた、フランス語がかろうじて読めるだけの者でもわくわくさせてくれる。開架図書の一部はジグザット

と呼ばれる螺旋状の書架に収められているのだがこれが曲者。床は階段でなく、かなり急な坂になっていて、それに沿って設置されているやはりメタルの書架は、外光を取り入れるため高さは1メートル余り。つまり本を捜そうと思えば螺旋状の坂道の中腰になってかがみ込みながら、ぐるぐる上がったたり下がったりするハメになるのである。私の場合、膝の古傷につらいばかりでなく、一度ならず船酔いでもしたように吐き気を催した。その上、螺旋状の書架の上でうっかりペンでも置こうものなら、ころがり続けるペンを追ってドタバタ映画を演じることになる。ともかく、使う者の身になって考えることを断固拒否した、美しくも楽しい建築物なのだ。

フランスの図書館に関する本年最大の出来事はなんと言っても、フランソワ・ミッテラン館と名付けられた新国立図書館の完成であろう。本を開いて立てたような形の巨大な塔が四隅に陣取る、ミッテラン好みのメガロマニアクな建物だが、そこへ至る道は実に険しい。文字通り物理的に険しいのである。ここはメソポタミアかインカ帝国かと言いたくなる階段をよじ登らねばならない。しかも登ったあげくに今度はエスカレーターで降りなければ中に入れない！ 96年末に一般向けの部分が開館、今年10月8日には本体を成す研究者用の部分が開く予定である。18世紀以来の伝統を持つ、重厚かつ壮麗だった旧館の閲覧室にもキボドの音が響きわたる時代になった以上、トイレまで全自動の新館が必要とされるのも当たり前かもしれない。ともあれリシュリュ館から引っ越した一千万冊を越える蔵書が塔に収められ21世紀の研究者が繙くのを待っている。未来を担う若者の皆さん、足腰を鍛えて学問の道をめざして下さい。

(p.s. ところで何事にもウラがある。この新館も、正面ともいべきセヌ川沿いの西口ではなく、“裏”の東口へ回れば、建物が傾斜地に立っているせいで上る階段はずっと少なくてすむ。ただしそこまでの水平移動を厭わなければだけれど。)

情報化時代の大学図書館

情報化社会の現在、大学図書館の役割・機能は大きく変わりつつあります。

近年の情報技術の進展の結果、ネットワーク上で様々な情報が公開されるようになりました。また、CD-ROMを始めとした電子化資料など従来とは異なった資料が増大しています。

このため、図書館利用者のニーズはますます高度化、多様化しています。このニーズに単独の図書館で対応するのはもはや難しく、他の情報機関とのネットワークを構築し、情報資源を共有することが不可欠となっています。

情報技術の図書館への応用は、場所と時間にとらわれない新たな図書館サービスを可能にしました。関西文化学術研究都市にある奈良先端科学技術大学院大学では自館の蔵書を可能な限り電子化し、ネットワークを通して文献を見ることができるようになっています。つまり、利用者は図書館に行かなくても、いつでもネットワークに繋がっている端末から図書館資料を見ることができるのです。

全国的な学術情報システムの機関である「文部省学術情報センター」では学会誌を電子化した電子図書館サービスを実施しています。まだ電子化されているものは限られていますが、学会誌そのものをネットワークを介して見ることが可能です。

本学図書館では、このような図書館を巡る動きの中で、平成7年から現在の図書館システムが運用されています。このシステムにより神戸市組織の図書館（神戸市外国語大学図書館、神戸市立図書館、神戸市看護大学図書館、神戸ファッション美術館）の蔵書情報をネットワークを介して得ることが可能になりました。また、インターネットに接続することにより他機関の情報も得ることが出来ます。しかし、中国語資料、電子出版物など依然対応しきれていないものもあります。

ご紹介したように情報技術の著しい進展の中で、自宅などの図書館外からもオンライン閲覧目録（OPAC: Online Public Access Catalog）で資料を探すことが一般的になっており、本学図書館のシステムは機能的に充分とは言えない部分もあります。今後、情報化社会に適合した機能を整備し、利用者のニーズに応えうるサービスを展開していきたいと考えています。

（ 図書館 大西 宏 足立 潔 ）

各種利用の統計

普段、利用者の皆さんにはあまりなじみのない図書館の利用に関する統計の数値を紹介します。一人あたりの平均値を見てご自分と比較されてはいかがでしょうか。数字は97年度(97.4～98.3)に記録されたものです。

1. 登録者数(98年3月時点)

学部	1,484人	
II部	578人	
大学院	108人	
外国人研究生	10人	
教職員・非常勤講師	201人	
科目等履修生	45人	
卒業生()	75人	卒業してからも登録すれば図書館の利用は可能です。

合 計 2,501人

2. 入館者数

年間	225,120人
1ヶ月平均	18,760人
1日平均	949人
1日平均の最も少ない月 [3月]	255人
1日平均の最も多い月 [1月]	1,279人

一人平均年間利用日数 90.01日

3. コピ - 枚数(教職員除く)

年 間	183,695枚
-----	----------

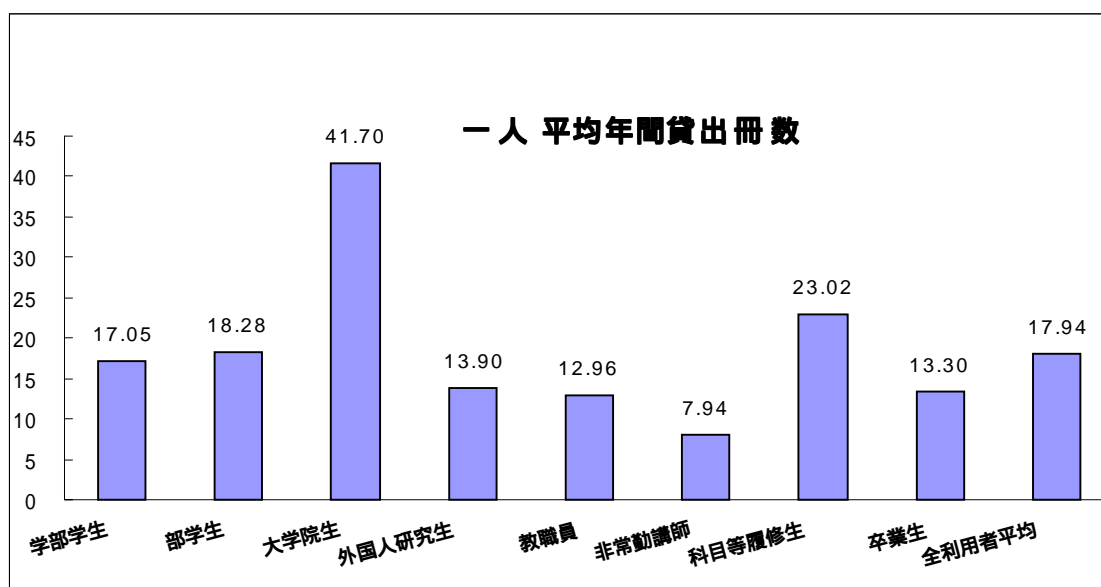
一人平均年間複写枚数 79.87枚

4. 貸出冊数

利用者区分	年間貸出冊数	一人平均年間貸出冊数
学部学生	25,301	17.05
II部学生	10,547	18.28
大学院生	4,504	41.70
外国人研究生	139	13.90
教職員	1,957	12.96
非常勤講師	397	7.94
科目等履修生	1,036	23.02
卒業生	997	13.30
合 計	44,878	17.94

参考

	年間貸出冊数	一人平均年間貸出冊数
1・2年	14,741	14.84
3年	10,065	21.01
4年	11,042	18.72



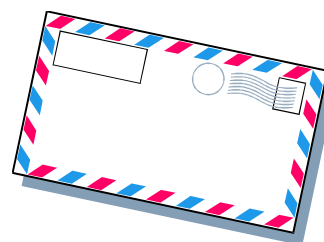
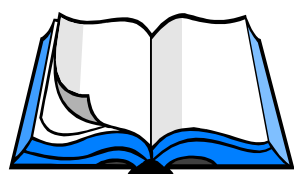
5. 外部機関の利用実績

図書館に見たい資料がない場合、他大学からの図書の貸出（相互貸借）、コピーの取り寄せ（文献複写）ができます。いずれも郵送料等実費が必要です。

急ぎのときは図書館で紹介状を受け取り、直接、他大学図書館を訪問することをお勧めします。昨年度は各制度、以下の利用がありました。

なお、特定の資料の所在は「<http://webcat.nacsis.ac.jp/>（学術情報センタ - 総合目録データベースWWW検索サービス）」のサイトを見れば調べることができます。

相互貸借	147件
文献複写	412件
他大学訪問者数	190件



蔵書点検の結果について

図書館ではほぼ毎年、夏の閉館時期に行方不明図書の洗い出しを行なっています。行方不明図書の大半は盗難によるものと思われ、一部の人の心ない行為で利用者全員が迷惑を被っています。ル-ルにのっとり適正な利用をお願いします。

分野別行方不明図書実数（開架・閉架共 98年9月20日現在）

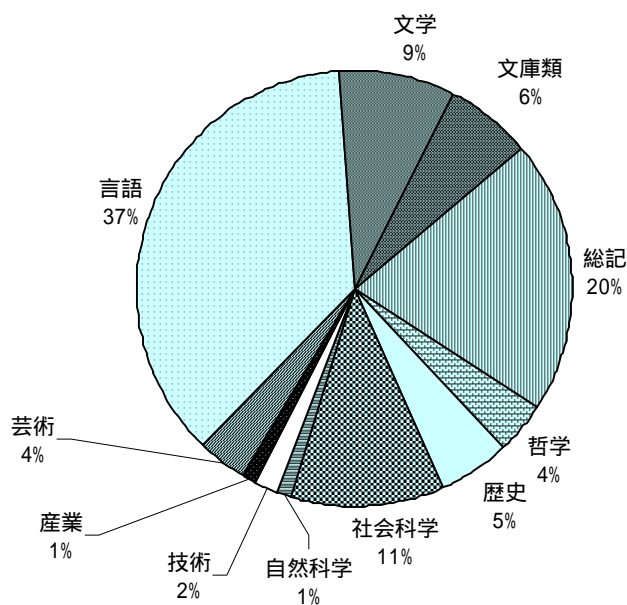
単位：冊

総記 108	技術 10
哲学 21	産業 6
歴史 28	芸術 19
社会科学 60	言語 194
自然科学 5	文学 46
	文庫類 34



合計 531冊

分野別行方不明図書実数



INFORMATION

キ - ワ - ド検索マシンの新設について

かねてから要望の高かった図書をキ - ワ - ドから検索できるマシンを1台導入しました。設置場所はカウンタ - 左側受付窓口の隣です。書名、著者名、請求記号、キ - ワ - ドでの検索が可能です。但し、最新の状況をまだ反映できておりませんので、新しい資料を含めて検索したいときは、従来のOPACをご利用下さい。操作法については備え付けのマニュアルをご覧ください。

冬季休暇中の開館時間と休館日について

開館時間

月曜 ~ 金曜 午前9時 ~ 午後4時30分

閉館日

12月26日(土) ~ 1月4日(月)

12月17日(木) ~ 24日(木)の補講期間中の開館日程は追って掲示します。

冬季特別貸出の実施について

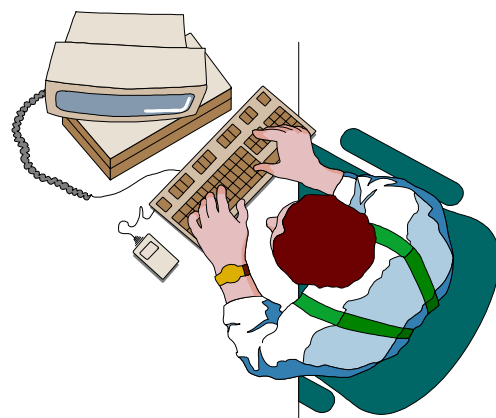
下記のとおり冬季休暇前に長期貸出を行います。

長期貸出期間 : 12月1日(火) ~
12月25日(金)

返 却 日 : 1999年1月14日(木)

貸 出 冊 数 : 通常通り

院生は12月17日(木)以降の返却日は4週間後になります。





編集後記

あいつぐ金融機関の倒産、和歌山の毒物混入事件に端を発するニュースなど何かと暗い話題の多い日本。フランスはリシュリュに「国立図書館」を有するのは周知のことですが、これに加えて最近「フランソワ・ミッテラン図書館」が開館され、一部オープンしたとのこと。情報化社会の進展の中で、世界は21世紀を目前にして「世界」と「未来」に向き合い、社会の発展、情報資源の開発と利用、そして資源の共有に適した図書館に変貌しようとする試みがここでも読めそうです。足元に目を移して本学図書館の利用実態を紹介した統計を諸君はどのように分析するでしょうか。それにしてもショッキングな「蔵書点検の結果について」の記事。図書館が営々と築いてきた蔵書をこのような心無き一部の利用者の行為で亡くすことを図書館として許すことは出来ません。心当たりの諸君の反省を期待し、その図書館を再び図書館の蔵書に加えてほしい。本学図書館にとってもやはり暗い話題で閉じることは残念至極。

編集責任者：図書館事務長 荒井 裕

AD ALTIORA SEMPER No.11

神戸市外国語大学図書館報

1998年10月28日発行

編集・発行：神戸市外国語大学図書館

〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1

Tel (078) 794-6151

Fax (078) 797-2257

URL <http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/>

E-Mail: info@lib.kobe-cufs.ac.jp

発行責任者：図書館長 原田 松三郎